

## 日本気象協会 2023年 春の花粉飛散予測(第1報) ～九州から東北で前シーズンより多く、非常に多い地点も～

### ◆2023年 春の花粉飛散予測のポイント

- ・九州から東北で前シーズンより多く、特に四国・近畿・関東甲信で非常に多い見込み
- ・九州から中国では例年並み、近畿から東北にかけて例年より多い予想
- ・前シーズン比、例年比ともに、九州から東北で並み以上

一般財団法人 日本気象協会(本社:東京都豊島区、理事長:長田 太)は、2022年10月6日(木)に全国・都道府県別の2023年春の花粉(スギ・ヒノキ、北海道はシラカバ)飛散予測(第1報)を発表します。また、詳細な情報を、「2023年春の花粉総飛散量 予測資料」として販売します。

### 1.2022年シーズンの花粉飛散状況まとめ

2022年シーズンの花粉の飛散量は例年と比べると、西日本では、九州でやや少なく、中国地方と近畿では少ない、四国では非常に少なくなりました。また東日本では、東海地方では少なく、関東甲信ではやや少なく、北陸地方では例年並み、東北地方で多くなりました。北海道では、やや多くなりました。

また、東京と大阪の過去10年の飛散傾向を見てみると、大阪で2018年～2022年に“飛散量の多かった年の次は減る”という、「表裏」の傾向が見られます。2022年シーズンの飛散量は、東京で例年比66%、大阪では例年比61%となりました。

2022年シーズンは、2月の低温が影響して全国的に飛散開始が遅れました。東京は、飛散開始は遅れたものの、その後飛散は順調に進みましたが、大阪では飛散開始の遅れと、シーズン通して飛散量が伸びなかったことから、前シーズン(2021年)と比べると半分ほどの飛散量となりました。

### 千代田区の花粉飛散量(スギ+ヒノキ)

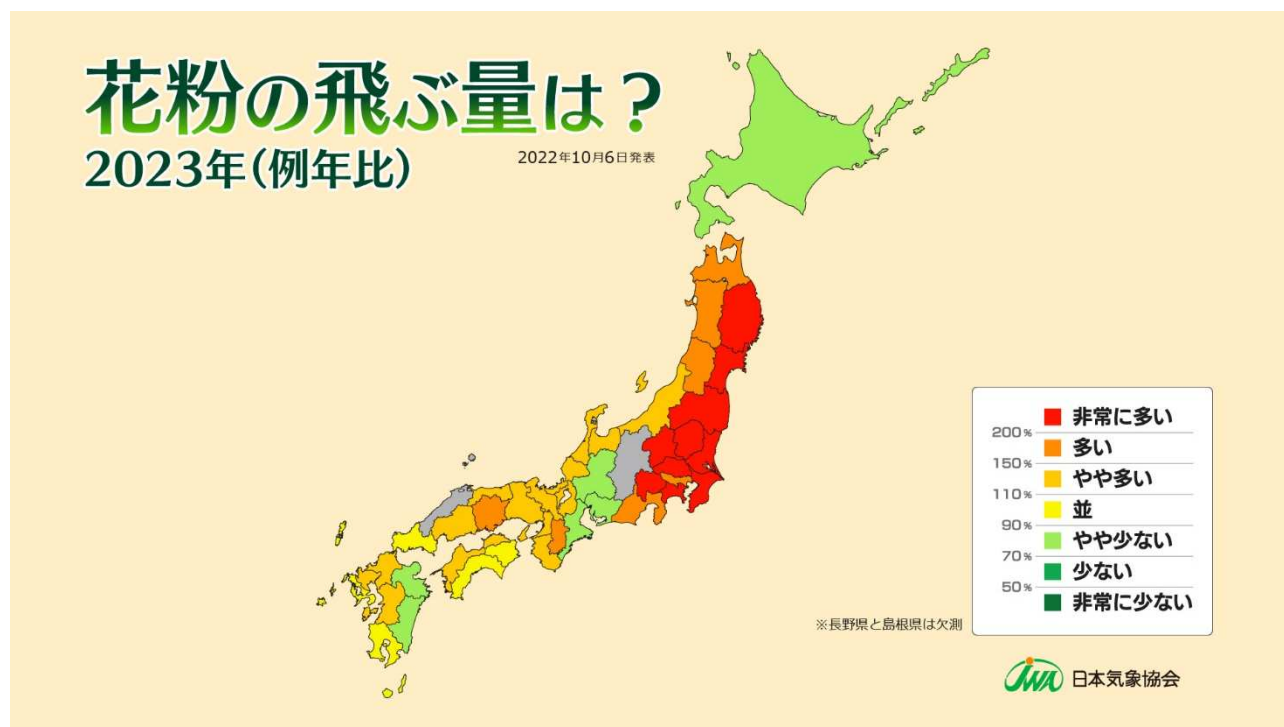


### 大阪市の花粉飛散量(スギ+ヒノキ)

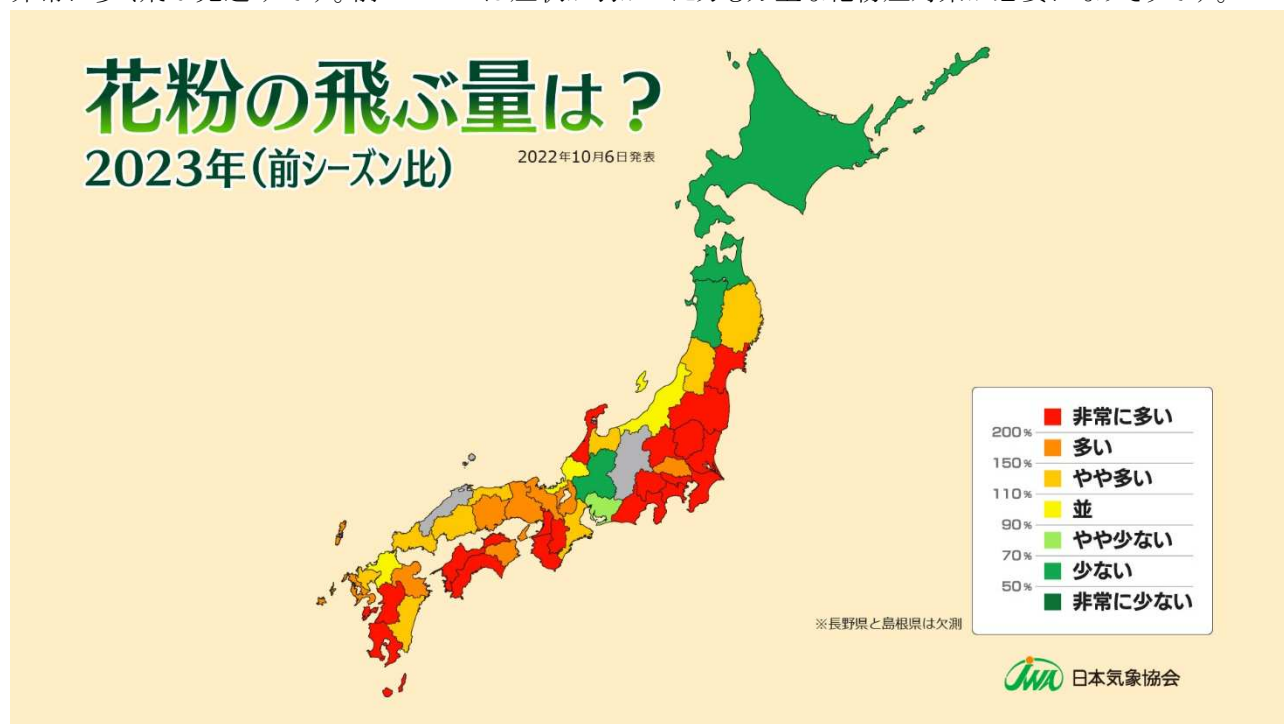


## 2.2023 年シーズンの花粉飛散傾向

2023 年春の花粉飛散予測は、例年比で見ると、九州や中国、四国では例年並みかやや多く、近畿、北陸ではやや多くなるでしょう。関東甲信は、東京では多く、その他の県は非常に多くなる見込みです。東北は非常に多く、北海道は例年よりやや少ないでしょう。東海は静岡のみ多い見込みですが、他 3 県ではやや少ないでしょう。



前シーズン比で見ると、九州から東北にかけて前シーズンより飛散量は多く、特に四国、近畿、関東甲信では非常に多く飛ぶ見込みです。前シーズンは症状が弱かった方も万全な花粉症対策が必要になりそうです。





### 3.各地域の花粉飛散傾向

地方	飛散量			
	例年比	地方平均値	前シーズン比	地方平均値
北海道	やや少ない	70%	少ない	50%
東北	非常に多い	200%	やや多い	110%
関東甲信	多い	190%	非常に多い	240%
北陸	やや多い	120%	やや多い	110%
東海	やや多い	120%	多い	190%
近畿	やや多い	130%	非常に多い	240%
中国	例年並	100%	多い	150%
四国	例年並	100%	非常に多い	270%
九州	例年並	100%	やや多い	140%

### 4.飛散量の予測根拠

花粉の飛散量は前年夏の気象条件が大きく影響します。気温が高く、日照時間が多く、雨の少ない夏は花芽が多く形成され、翌春の飛散量が多くなるといわれています。

2022年の夏は、梅雨前線の活動が弱く、6月の降水量は西日本 太平洋側でかなり少なく、日照時間は東日本 日本海側と西日本 太平洋側でかなり多くなりました。6月後半から7月上旬にかけて太平洋高気圧が強まり、東・西日本を中心に晴れてかなりの高温となりました。そのため、6月に「**高温・多照・少雨**」となり、スギの花芽形成に好条件となりました。さらに、2021年～2022年に花粉飛散量が少なかった地域が多く、スギの木に花芽を形成させるエネルギーが蓄えられていたため、より一層、スギの花芽形成が促進されたと考えられます。

#### 【天気傾向】

6月	本州付近は梅雨前線の影響を受けにくかったため、西日本 太平洋側の月降水量はかなり少なく、東日本 日本海側と西日本 太平洋側の月間日照時間はかなり多くなりました。後半は太平洋高気圧が強まり、西日本から北日本南部では晴れて高温となり、月平均気温は東・西日本でかなり高くなりました。一方、北海道では気圧の谷や湿った空気の影響を受けて、月降水量はかなり多くなりました。
7月	気温は、全国的に高くなりました。前線や台風などの影響で太平洋側を中心に大雨になった地域があり、降水量は、太平洋側で多く、日本海側は平年並みか少なくなりました。日照時間は、全国的に平年並みでしたが、北・東日本の日本海側は多くなりました。
8月	気温は、北・東日本は平年並み、西日本は平年より高くなりました。前線や台風などの影響で北・東日本は記録的な大雨となった地域があり、降水量は北・東日本で多く、西日本は平年並みでした。日照時間は、北・東日本で少なく、西日本は平年並みでした。

## 5. スギ花粉のライフサイクル

スギ花粉は1年間を通じて、生長・形成・開花を経て、花粉を飛散します。飛散した花粉からまた生長が始まります。



### 【花粉の種類について】

北海道はシラカバ、その他はスギ・ヒノキ花粉の飛散量を表します。

### 【飛散量に関する言葉の説明】

非常に多い	:前シーズン (例年)の 200%以上
多い	:前シーズン (例年)の 150%以上 200%未満
やや多い	:前シーズン (例年)の 110%以上 150%未満
前シーズン(例年)並	:前シーズン (例年)の 90%以上 110%未満
やや少ない	:前シーズン (例年)の 70%以上 90%未満
少ない	:前シーズン (例年)の 50%以上 70%未満
非常に少ない	:前シーズン (例年)の 50%未満

---

前シーズン	:2022 年シーズン飛散量
例年	:過去 10 年(2013~2022 年)の平均値

### 【2022 年夏の気象に関する言葉の説明】

平年	:1991~2020 年の平均値
----	------------------

### ◆日本気象協会の花粉飛散予測とは

日本気象協会は 1990 年からスギ花粉の飛散予測を発表しています。日本気象協会の花粉飛散予測は前シーズンの花粉飛散結果や今後の気温予測などの気象データをもとに、全国各地の花粉研究会や協力機関からの情報、花芽の現地調査の結果などをふまえて予測しています。

- ・本情報の無断での法人利用(プレスリリースでの引用や販促目的使用など)はご遠慮いただいております。  
商品 PR など法人利用をご検討の際はお問合せフォーム(<https://www.jwa.or.jp/contact/>)からご連絡をお願いします。